

またまた長い 編集後記

編集長（ダン シロウ）

新しいことを始めるとき、およそのイメージが掴めて
いるプランのある場合と、出会い頭の暗中模索のよう
な時があると思います。「対人援助学マガジン」の場
合は後者に近かったと言えます。ただし暗中ではなく、
輝きのありそうな中の模索でしたので不安はありません
でした。

そんな時、「天地明察」沖方 丁（ウブカトウ）著を
読みました。江戸時代、中国の暦を日本でそのまま使
っていることからくる誤謬を計算し、大和暦を提案した
男の物語です。高校の日本史授業で名前くらい聞いた
覚えのある「和算」の関孝和も天才数学者として登
場します。およそ私とは縁遠い存在の主人公の、皆目
分からない題材の物語でありながら、ハラハラ、ワクワク
しながら、450頁を三日で読み終えました。

未来の結果を支配できる者はいません。願わくば
努力は報われたいですが、その見通しだけで「する・
しない」を決めたくないと思います。記憶の中にプロセ
スの重要性が裏切られたことはありません。始めたこ
との多くが継続中になるので、2号発行にあたって又
ひとつ、いつまで飛び続けるかしのれないものを本格離
陸させた感覚でいます。

いかがでしたか、創刊号 82 頁の WEB 雑誌。なかな
かの出来映えだったのではないかと編集長は満足し
ています。

そして第二号。更に充実するだろうと楽観的予測で
はいたのですが、予想以上の進化ではないかと思っ
ています、いかがでしょう。まだそれほど多くはない読

者の方達にも、このサイクルで第二号が届くのは嬉し
いのではないのでしょうか？

作業しながら考えたことですが、このマガジンの発
刊スタイル。売れ行きの話が不要で、在庫管理の負
担なくHP上にはバックナンバーを残しておくことが出
来ます。今後も永く読んでいただける機会を確保した
まま、号を重ねてゆける、なかなかの方法だと思っ
ています。

関心分野の連載だけをダウンロードして、自分用に
編集した「カスタマイズ対人援助学マガジン」を作る
ことも可能なわけです。どんな読み方をしていただ
けらるうと楽しみにしています。

今号から新たに二つの連載が開始しました。編集
長としては予定通りですが、思いが形になって広が
ってゆくのは快感です。次号以降も、まだまだ新たな分
野の新連載を模索するつもりです。

その一方で、雑誌が生き物である以上仕方ないこ
ともかもしれませんが、事情が動き出して「形づく
る人々」が今号で中断になります。残念ですが、何が起
こるか誰にも分かりませんので、楽観的に今を受け止
めたいと思います。

第二号の執筆者は 22 人、この方々の原稿が全部
揃ったのが、8月29日未明でした。一応告知として 8
月 25 日締め切りとお伝えしてありました。8 月末だ
と思っておられた方もあったのですが、一度の直前告知
で見事全員分揃いました。創刊号より長文になった方
が多くなりました。各筆者の責任校正という立場をとっ
ていますので、気楽な編集です。有り難いことだと思
って、全体のレイアウトに取りかかりました。

創刊後してしばらくして、学会事務局長でHPの管
理もしてくれている川原さんから、こんなものを作っ
てみましたと印刷された「対人援助学マガジン」が届きま
した。

古い人間だからでしょうか、WEB 上で見た時の感
激とはちがった喜びがありました。雑誌を手にするの

も悪くない！そう感じてしまったので、執筆をお願いしている方達にも、これを届けたいと思いました。誰もこういうモノが送られてくるとは思っていないはずです。

そこで、事務局長に印刷屋さんを紹介して貰って、100部限定で印刷版の創刊号を作りました。私が勝手にやっていることだから、経費は自分持ち。

そして第二号の執筆依頼文を同封して、連載筆者に発送しました。ダウンロードしたモノとはひと味違う出来上がりになっています。(全文面カラー印刷など出来ないの、表紙以外はモノクロです)。驚きの声が予想通り、複数届きました。

この残部が少しありますので、実費(1000円+送料)でお分けしてもいいなと思っています。希望の方は編集部にお知らせ下さい。残部があれば第二回大会会場にも出しておきたいと思いますのでお探しい。

(マガジン編集部)

604-0933 京都市中京区山本町438

ランプラス二条御幸町402 仕事場D・A・N

世間は、家族にまつわる嫌な事件ばかりを報道して、みんなでそれをしゃぶり尽くすハイエナ気分の蔓延です。でもそんなところに今日の本質があるとは思っていません。このマガジンで述べられているような日常が、様々な分野で、日々繰り広げられているのを現実と呼ぶ選択をしたいと思います。

ゴシップの面白さに慣れた感性も確かに今日の日本人に刷り込まれています。しかしこのマガジンのコンテンツの面白さを感じる力も備わっているはず。何に興味を持つかがその人だという面があるでしょう。既存のモノばかりに自分を席卷されてしまわなくてもいいのです。自分が良いと思うことは、自分の手で実現してしまう。これが一番だと思います。出来ないことを語るより、やってしまえばいい。歳をとってきたからかもしれませんが、そのために必要なエネルギーやコ

ストを厭う理由は少なくなりました。

夏にちょっとバタバタしていたら、もう第二号の原稿を督促する時期になってしまいました。執筆者の皆さま、本当にご苦労さまでした。申し訳ない気分がないわけではありませんが、早速第三号の原稿締め切りは11月25日です。とにかくどんどん書いておいてください。季刊誌って、結構サイクルが早いです。慌たしい事に巻き込んでしまいました。お許し下さい。でも、何か面白いことが始まった感、ありますでしょうか？

編集員(チバ アキオ)

第2号、編集者の特権でみなさまより、一足お先に読ませていただきました。1号も、かなり読みごたえがあるものでした。ですが、それは、あくまで地ならしだったのです。これから、わたしが語りたいものはここのこのことですよという。

そして、2号。いよいよ本編が始まっていきます。

2号が楽しみだった私は、2日で全て読みました。私も学会というものには複数入っています。しかしこれまで、学会関連の発行物を読み切ることはありませんでした。そして、次回がたのしみ！ということもありませんでした。(私がこんな人だからというのはもちろんありますが)

写真あり、カラーでもあり、冊子版でも入手可能。ネット上なら無料で会員以外でも入手可能。「FREE」(クリス・アンダーソン著)などでも話題のように、電子媒体のものの多くが無料化に進んでいるといわれています。

そのなかで学会というものがこれまで以上のものを学会員には届けていく。これは、旧来の学会モデルへのチャレンジというおもしろさもあり編集係としても楽しんでいるところです。

カンヌで賞を獲った映画「ペルセポリス」に代表されるようにマンガを使ったジャーナリズムが注目されています。マンガの強みは絵があるので、お年寄りから、

子どもまで、そして、日本漫画の輸出にみられるように国が変わっても読むことができるということです。

これは、難しい(とされる)政治記事などを読む人は限られるけれどもマンガなら多くの人が読める。それならば多くの人に伝わり、これまでより伝播する可能性が高まるということです。

この役割に似たようなものがマガジンにはあるように思います。もちろん、これまでの学会の目的であるその領域の学問的な追求もありながら、その一方で多くの人が読み、知ることができるものを社会に届けていく。

執筆者の皆さんが体験されている多くの現場があり、それを知ること、また、読者の人が自分の現場に反映させていく。マガジンが結果、ひとつの対人援助の取り組みとなるよう関わっていきたいと思います。

対人援助学マガジン

No. 2

2010年9月15日発行

<http://humanservices.jp/>

対人援助学会事務局

〒603-5877 京都市北区等持院北町 56-1

立命館大学大学院応用人間科学研究科内

TEL:075-465-8375 FAX:075-465-8364

対人援助学会事務担当

入会・退会・変更届

〒540-0021 大阪市中央区大手通 2-4-1

リファレンス内

TEL/FAX 学会専用:06-6910-0103

マガジンに対するご意見ご感想

danufufu@osk.3web.ne.jp

にお寄せ下さい。次号に掲載させていただく場合もあります。

表紙の言葉

「表紙は毎号、変えようと思っています」と創刊号に書きました。でも、毎号あまりにも変化しすぎるのはよろしくないと思うと助言をいただきました。本文レイアウトも、変更する必要があるものは変わるので、それ以外は変えすぎないようにしました。

創刊号の表紙は気に入っていましたので、ベースをそのままにして、登場するサービス業の人だけ変えてみました。しばらくこのスタイルでカラーバリエーションを楽しんでいただきます。

今回登場した女性は、タイ・バンコクの水上市場付近でのスケッチからです。元気な街は、物売りの勢いが違います。屋台店や生鮮食料品、怪しげな商売も丸ごと、活気のある元です。

下の乗り物はトゥクトゥク。三輪タクシーで、これも街の名物です。排気ガス吸わされ放題で、乗り心地も悪く、メータータクシーと比べて、安くもないし、ボラれたりもします。

初めて訪れた時、ホテル前にたむろする運転手に、到着早々とんでもない料金をふっかけられました。二日目以降にそれは判明するのですが、平気で翌日も声をかけてきます。覚えていないわけではないのです。交渉すれば大幅に安くなるのです。

それが面白いなんて変ですが、まだ生き延びているでしょうか？バンコクは刻々様変わりしていると聞きます。近代化の合理的変化について行けないまま、滅びてゆく物も人も、街の構成要素です。

団士郎